

総合特別区域の進捗に係る評価
[ライフ・イノベーション分野]

令和元年度

さがみロボット産業特区

[指定：平成25年2月、認定：平成25年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4.5+4.2)/2=4.4$

4.4

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	特区発ロボットの商品化状況	100%	5
2	実証実験等の実施件数	139%	5
3	県の企業誘致施策等を活用したロボット関連企業の件数	91%	4
4	生活支援ロボットに関する特区の取組に参加する県内中小企業の数	75%	3
5	生活支援ロボットの導入施設数	171%	5
6	生活支援ロボットを体験する取組に参加した人数	102%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 4 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 6 = 4.5$

4.5

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.2

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(2.8+1.7+4.6)/3=3$

3.0

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

2.8

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

1.7

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.6

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.2

- ・生活支援ロボットの開発、実証実験、商品化、商品認知や施設導入などのマーケティングすべての段階で成果を挙げていることが高く評価できる。服薬支援、介護支援ロボットの実装などを集積し、好事例として全国に発信してほしい。
- ・地域独自の取組において、きめ細かな支援が実施され、実証実験の段階から実用化への移行の可能性の兆しがみられる点を評価したい。
- ・ロボット事業の成果を判断するには、特区の取組みに参加する県内中小企業の数の増加は必須であり、対策を急ぐ必要がある。
- ・令和2年度の目標を上回って達成している評価指標(5)については、目標の上方修正や新たな評価指標の検討が必要である。
- ・生活支援ロボットは、施設スタッフの反対や運用コストの高さから、ロボットが施設に導入されても使われていないケースが多い。最終的には生活の中でロボットが役立っていることが重要なので、ロボットの導入施設数に加えて、活用度(稼働率)や効果(人件費削減、利用者のQOLなど)の指標を検討するとよい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.2

総合評価

I、II及びⅢを1:1:2の比率で計算 $(4.4+3+4.2 \times 2) \div 4 = 4$

4.0

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。